

住吉桜土手から

串戸浄化センターを歩く

妹尾 治人

平成十一年六月二十九日の集中豪雨は想像を絶するもので、桜土手から極楽寺山を見ると、山崩れの跡が数ヶ所見られる。また、可愛川では増水により流木が橋の上にまで打ち上げられ、自然の猛威を見せつけられた。

今回の豪雨により、可愛川の河口は川底が浅くなってしまい、深みに沢山泳いでいた魚は見えなくなった。それでも、青サギ・中サギ・小サギが数羽、夏はない筈のヒドリガモ二羽（北国に旅立てなかつた残り鴨の夫婦）が餌を探していた。

河口から桜土手に入ると、北側の水路に珍らしく空飛ぶ宝石と呼ばれる川セミに出会った。土手の両側に五米間隔に桜の木が植えられ、その数は三〇本。花見の季節には雪洞が立てられ、桜の名所として多くの花見客が訪れたが、今は青葉のトンネルとなり市民の散歩道となっている。

土手を歩いて目についた植物は、ウバメガシ・ヤマモモ・マテバシイ・ハマヒルガオ・メドハギ・ヌスピトハギ・オオアレチノギク・セイタカアワダチソウ・ススキ・ヨモギ・ヤハズソウ等何処でも見られるもののほか、こ

の土手の特徴的なものとして、エノキ・ニワウルシ・ブタクサ・オオブタクサ・ワルナスビ・イシミカワ・カワラヨモギが見られた。秋になれば、ススキに寄生するナンバンギセルも見られる。

桜土手を通り抜け、昭北グラウンドを経て南に行くとも木材団地のメイン道路（将来の広島南道路）がある。その緑地帯では、スマレ・ネジバナ・ブタナ・マンテマ・ノハラナデシコ等が可憐に花を咲かせていたが、悲しいことにゴミの投げ捨てがひどい。

北港と南港を結ぶ榎の浦大橋を渡ると、右手に野木場があり、そこから廿日市市浄化センターに行く嘉永橋が架かっているが、現在は関係者以外は通れない。（写真参照）



嘉永橋風景

浄化センターのある広い埋立地では、春にはヒバリが数組見られ、野鳥愛好者の目を楽しませてくれた。カワラヒワ・キジバト等も見られ、ここに鳥の餌になる木の実・草の実を植えてやれば、間違いなく野鳥の楽園になることだろう。

工事中の柵越しに埋立地を覗いてみると、オオアレチノギク・セイタカアワダチソウ・ススキ・メドハギ・ギンギシ・ヨモギ・カワラヨモギ・ヤハズソウ等生活力の強い植物が、早くも新天地を見つけて繁茂している。樹木は、植栽された桜とマテバシイのほかアカメガシワとエニシダの実生が見られた。

埋立てをすると海の生き物は圧迫され、陸の生き物は人間を含めて生活の場が狭がる。自然の生態系は変わるが、生きもの全体で見れば功罪半ばとみたい。串戸の浄化センターは現在立入り禁止だが、工事終了後は、みどり豊かな、海辺の憩いの場になることを願いたい。出来ることなら野鳥の観察小屋も欲しいものだ。

「串戸沖野鳥の唄をききにいく」

（自然観察指導員）